

全員起立してください。

[全員起立]

○議長（作元 義文君） 黙禱。

[黙禱]

○議長（作元 義文君） 黙禱を終わります。

着席してください。ありがとうございました。

[全員着席]

---

### 日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

登壇者は4人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） おはようございます。今議会から2番議員となりました会派清風会の脇本啓喜です。

まずは、市長、御当選おめでとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。

さて、昨今、橋下大阪市長、樋渡武雄市長、高島福岡市長といった、私よりも若い市長たちが脚光を浴びています。彼らに共通する特徴の一つは発信力でしょう。「知らしむべからず、寄らしむべし」という政治はとっくに終わったのです。彼らから学ぶ現代政治に求められているものは、生資料の情報公開、いわゆるディスクロージャーに努めること。アリバイづくりや、やらせの公聴会ではなく、リアルタイムで双方向の情報を活用し、選挙区内の市民のみならず、多くの方からの意見も収集し、スピード感ある行政運営を行うことだと思います。前回の一般質問で、これからの政治は利益をいかに分配するかではなく、負担をいかに分担していただくかを丁寧に説明し、不利益をこうむる人たちが納得いく緩和策を提示し、実行するかが求められると私は述べました。問題が顕在化して、慌てて対応しては、時間も労力も市民の負担も大きくなります。想定し得るデメリットを早い段階で市民に開示し、その負担緩和を提示する。いわゆるムーブファーストを心がける。そして市民と一緒に納得のいく落としどころを決定していく。これが今後迎える地方分権時代の民主主義政治に求められていることだと思います。

ところで、以前から要望していた施政方針の早期配付についてですが、今議会、告示10日前に配付されました。これは我々議員を含めた市民の声を聞こうという市長の真摯な姿勢のあらわれであり、内容からも、これから攻めの行政運営に転じるぞという強い意志の発信が感じられ、高く評価できると思います。今後4年間、より一層、スピード感のある開かれた市政運営を期待します。

質問を始める前に、今回の一般質問に関して、多くの学校関係者や市役所の職員の方々には、年度末の御多忙の中、私の拙稿に対し、たくさん貴重な御意見を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

それでは通告に従い、一般質問を行います。

今回も結論を先に述べるコンクルージョンファースト方式で簡明な答弁を、まずは教育長のほうから求めます。

1番、学校統合により生じるデメリット解消、緩和策について、スムーズな統廃合に向けた具体的な取り組み状況について。

統廃合による地域と学校のかかわりの希薄化を防止するためにも、子供たちが地域に出かけたり、地域の方に学校に来ていただく企画や支援を行なえないか、教育長の答弁を求めます。

次に、統廃合する学校間における教職員異動について配慮ができないか、教育長の答弁を求めます。昨年統廃合した3組の中学校の職員異動の際、閉校側から受け入れ側にそれぞれ1名ずつしか異動になっておらず、生徒や保護者が少しでも安心できるように配慮できないかとお願ひしていました。今後は多くの小学校でも統廃合が始まり、一層の配慮が必要だと思ひます。

3番目に、子供が学校を卒業するまでは実家から離れて児童生徒が多い地域に転居する親子も結構いらっしやいます。地域に学校を残すことで、かえって、その地域の子供の減少や地域力の弱体化が進んでいるのではと心配する見解もあります。教育長の見解を求めます。

私は、今述べた見解は一理あると思ひますが、学校があつたほうが地域の活力は残せるはずですし、そもそも地域の活性化は学校があるなしではなく、産業の充実がかぎになることで、本来は別次元のことだと思ひます。祖父母との触れ合いや地域の方にはぐくまれる対馬の子育て環境はすばらしいと思ひます。統廃合後も対馬ではPTAのAはエリアのAだという子育て環境を維持できるように官民上げて取り組むことが重要だと思ひます。

(2) 複式学級教育の学習環境改善策について、現在、教員免許を必要としない介助員等とは別に、県費による教員免許を有する非常勤の複式支援教諭が7人いらっしやいます。県費以外に市の単独予算を支出しても加配対応するなどの支援ができないか。教育長の答弁を求めます。

このパネルは、市内全小学校の学年別児童数と学級編成の一覧を教育委員会に作成していただいたものです。赤い線で囲まれた、つながれている箇所が複式学級です。来年度から佐須奈小学校に複式学級が生じる見込みで、市内27の小学校のうち複式学級が発生しない学校はわずか7校のみになります。複式学級教育対応策は、対馬の学校教育を論じる際、避けては通れない課題です。学校統廃合は言うまでもなく、児童生徒の学習環境改善のために行うものです。統廃合で複式学級が解消する学校でも、数年後には統合前より多くの児童生徒数での複式学級が発生することが十分想定されます。2つの学年で16人規定に迫る複式学級の運営や飛び学年の複式学

級運営は困難を極めると思います。

次に、市長に質問いたします。

第1次対馬市総合計画後期基本計画について、後期基本計画の取り組み体制について、プロジェクトチームの結成の必要性とそのありように関する市長の見解を求めます。

基本計画やマニフェストはどうしても総花的になり、その達成度となると首をかしげることになりがちです。この後期基本計画の主要事業は6つの大綱、これを合計すると、全部で188もの主要事業になります。すべての事業に担当者を張りつけても完遂は困難でしょう。そこで、優先順位をつけて、最重要事業を数事業に絞り込んだ上で、プロジェクトチーム、以下PTと言います、を結成することを提案します。最優先事業は複数の主要事業を組み合わせる有害鳥獣対策事業や貿易拡大推進事業、資源循環型社会の構築事業等が考えられるでしょう。何をやるかが決まれば、次はだれがやるかです。PT担当者には、現在の名刺の肩書きとは別に、もう一つPTの肩書きを持たせ、そのチームリーダーには課長補佐や係長クラスを抜擢すること提案します。

(2) 後期基本計画進捗状況を把握するシステムの確立に関する市長の見解を求めます。

事業を計画どおりに完遂するためには、計画の進捗状況を把握することが重要です。最重要事業PTには、結成後、直ちに事業計画のロードマップを作成させ、議会で事業のグランドデザインの説明を求めます。進捗状況を把握する際には、議会や専門家あるいは利害関係者、いわゆるステークホルダーも参画できるシステムを構築すべきだと思います。

以上、答弁によりましては、また、再質問させていただきます。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） おはようございます。脇本議員の御質問にお答えをいたします。

平成23年2月4日に、対馬市立学校適正規模、適正配置等検討委員会からいただきました答申書に基づき、今年度、統合推進計画を内部で策定し、その計画に沿って各地区に出向き、統合に関する説明会を実施しているところでございます。現在のところ、ほぼ計画どおりに進んでおります。

まず、最初の地域とのつながりについてでございますが、カリキュラムは学習指導要領に従って、各学校の実態や地域性等を踏まえ、学校長が編成することとなっております。子供たちが地域に出向いて学習したり、地域の方を学校に招いたりすることで学習効果が期待できる内容については、これまでどおり、各学校でカリキュラムの中に位置づけ、教育活動を実施していくものととらえております。市教委としましては、地域を中心とした学習の推進や地域人材の活用等を進めるよう、各種研修会等を通してお願いをしているところであります。

週休日等につきましては、子供たちが地域で伸び伸びと活動できるように、各地区の子供会や育成会のさらなる充実を期待をしております。

統廃合の学校間での問題で、人事異動に関することも御質問にありました。統合に際し、児童生徒が精神的に安心し、落ち着いた状況を整えてやることは重要であると考えております。議員もお考えのとおり、配慮しなければならないと思っております。ただ、人事権は県教委にありますので、市教委としましては、内申の際に強くお願いをし、1人でも2人でも配置ができるように努力をしておりますし、今後もしていきたいと考えております。

中学校では教科の関係や、小学校においては送り出し校の職員が少人数ということなどから、1人しか配置できない場合もございます。なるべく複数の職員が配置できるように努めていきたいと考えております。これまでもゼロということはあっておりません。

3番目についてです。学校を残すことがかえって地域力の弱体化につながっているのではという御質問でございました。

今年度、統合説明会に出向いた地区で同様の意見が聞かれました。各地区においては、学校の存続を強く希望されている反面、実際にお子さんをお持ちの方から、多くの児童生徒の中で切磋琢磨しながら学ばせたいと考えられている方がいらっしゃいます。そのようなさまざまな御意見を真摯に伺いながら、最終的には、児童生徒にとって、どうすることが最良であるかを中心にして、保護者の皆様、地域の皆様に判断をいただいているところでございます。

複式学級の学習環境の改善策についてでございます。公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律、簡単に標準法と呼んでおりますが、第3条によって、学級編成の基準が定められております。ただし、県教委は、県における児童生徒の実態を考慮して、特に必要があると認める場合については、国の規定を下回る数を基準として定めることができるとされております。また、長崎県の学級編成届け出に係る取り扱い要領には、市町教委が地域や学校の実情に応じ、県の基準によらない数で学級編成ができるものとされております。ただし、市教委で複式を解消しようとした場合は、教員を市独自で雇用しなければなりません。現在の市の財政状況では、かなり厳しいものと考えております。今のところは、県が配置している複式支援非常勤講師を活用して、きめ細かな指導を行っているところでございます。しかし、非常勤の数が限られており、複式を有するすべての学校に配置することはできていない状況でございます。

そこで、市教委としましては、人的環境の整備として、複式学級を担当する教員の指導力の向上を図ることに努めております。

具体的には、1つ目、複式教育の研究校の指定であります。これは3年間指定をいたします。2つ目、校内研究推進校の指定でございます。これは1年間の指定でございます。3番目、研究協力校の指定、これは1番に申しました研究校を3年間指定した後に、終了後に1年間の指定でございます。4つ目に、複式指導法研修会の実施でございます。これは市内年3回行ってまいります。複式担任の先生方の全員を対象にして、研修会を実施しております、かなりの効果が上が

っております。

以上の事業を実施し、初めて複式を担当する教員を始めとする複式担当教員への指導支援を行っているところでございます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） おはようございます。脇本議員の御質問に答えさせていただきます。

2点目の総合計画の後期基本計画の進捗等々について、きちんと検証をしていかないといけないんじゃないかという、大きく言えば、そういうお話だというふうに思います。

その前に、質問に入られる前におっしゃられました橋下さんと、樋渡さんと、それと高島さんのお話がありましたけども、それぞれ発信力があるというお話ですが、樋渡さんを除いてのお2人については、もう最初から発信力のある方がそういう首長になっておられますので、それは別としまして、樋渡さんについては、行政マンからなられたということを考えたときに、やはり、その発信力というのは際立っているなというふうに思います。いかんせん、それは九州ナンバー1の市長だというふうに思いますし、あの頭脳のやわらかさというものは際立っているということで、ちょっと一緒にされるのは、ちょっとつらいなというのが正直な思いです。ただし、今後の市政のあり方として、発信力というのがすごく大事なんだと。そして、この市政の中身について、やはり、ディスクロージャーという言葉が使われましたけども、どんどん表に出していくということが、これからの市のやり方でありまして、昨年12月に議会において可決していただきました市民基本条例の中でも、条文の中でも、当然公開ということが一つの大きな柱であります。そこには、公開するためには、発信力ということで、この4月から、新年度から、発信という問題とあわせて、中の庁舎内の横連携の部分を担当する職員をつくり出そうということで考えております。

もう一つ、大事なことをおっしゃられました。今まで分配ということに対して、人の目が行ってた。しかし、これからは負担の分担という言葉が使われましたけども、まさに、そういう時代は来たと思っております。入りが少のうございます。そういう中で、市民の皆様が今までと同じような分配ということに対して、物事に力を注いでいただく時代は終わり、これから先は、今、脇本議員がおっしゃられたような負担の分担ということになろうかと思えます。そのときに、大きく問題になるのは、やはり、地域のエゴイズムだと思っております。やはり、こういう部分をどう解消していくかということが、対馬が一つになり、対馬が新たな高みに上っていくために、とても大切なお考えだというふうに、今、聞いておりました。

そういうことで、本来の御質問のほうにちょっと入らせていただきます。

総合計画だけではなくて、計画そのものが、ややもすると総花的になるという部分は、いたし

方ない部分はあるかと思いますが、実は188ではなくて、確か、182の事業ということで、私どもは、数字はともかくとしまして、182が多いのか少ないのかという考え方になりますけれども、これは結構絞り込んだ事業であります。総花的なことをしてても、選択と集中とかいう一つの考えの中には相入れない部分があるものですから、182まで絞り込んで、物事を組み立てて計画はでき上がっているというふうに、私自身は理解をしております。

その中で、現在のその182の事業の着手状況といいますか、いう部分をまずお知らせをしたいと思います。182のうちですね、完了または着手済み、完了したとは決して言いませんけれども、それが156、着手済みが156というふうに理解をしていただければと思います。そして、平成24年度、来年度に着手予定が10あります。24年度においても、まだ未着手の事業が16あるというふうに報告が来ております。協本議員がおっしゃられたのは、その事業の完遂ということが一つ大きなキーワードだと思いますし、そのためにプロジェクトチームを立ち上げて、きちんと進捗を見、事業を推進するべきだというふうにおっしゃってあると思います。十分にその進捗度合いという、事業のですね、進捗度合いというのを内部でも図りながら物事は進めておるつもりでございます。

そして、プロジェクトチームっていうお話ですけども、これについては、実は、私、2月26日の選挙が終わりまして、当選証書をもらってから3月1日だったと思いますが、幹部職員全員集まっておきまして、今後の事業の方向性というもの、そして選挙期間中に市民の皆様にお示しをした事業の問題、そしてシステムのことにつきまして、説明を申し上げ、そして、この問題については、すべての部署が絡んでやっけていかないと進まない問題。一部署だけで完遂するということはある得ないということで、それぞれの私が示しました循環システム等々につきましても、何らかの形ですべての部署がかかわるんですよということを話をし、今後、それに向かって、それをどのように動かし始め、完遂していくかということに庁内全員で動き出していきましょうというお話をさせていただきました。冒頭言いました、その発信力と新たな4月以降の体制につきましても、横連携という話をしましたけども、そのPTと同じようなことになろうかと思っております。私どもの組織というのがややもすると縦割で物事が進んで今まで来た部分がありますので、そこを横串を入れるという意味において、その3月1日、そのような話を幹部会議でさせていただいたところであります。4月1日以降はそのような形を今後とっていくことになろうかと思っておりますし、今までも、特に昨年、昨年の2月から5月にかけては、その離島振興法の新たな改正に向かっての要望項目を組み立てていくために横串を入れ、3カ月間、課長補佐以下で組み立てをするということもさせていただきました。そして提言書をまとめてきたということもやってきておりますので、今後、総合計画の後期基本計画につきましても、当然、その進捗については、横串を入れながら、中でやっていくということには、予定はしておりますの

で、脇本議員のお考えの方向性と何ら変わる所はないというふうに思っております。詳細部分は違うかもしれませんが、手法的には、方向は一緒に物事を進めておりますので、ということと、ちょっと一つ、私はひっかかったことが、先ほどの質問の中で、ステークホルダーという話がありました。要するに利害関係人ですよね。直訳すれば、その利害関係人が進捗状況とかいう部分に入ってくることの是非は、まだそこまで至ってないんじゃないかと。だから、脇本議員がおっしゃってあるステークホルダーの域がどこまでなのかという部分。私どもであれば、公共団体、公共的団体とかいう部分は、今までも入れてきて、入ってきてもらって、物事を検証してもらっているのはあります。そこについては、若干の違いがあるのかなというふうに思っております。

ざっくりと、そのあたりで、まずは答弁を終わらせていただきます。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） では、教育長のほうから再質問させていただきます。

来年度、久原小学校と西小学校が統合するに当たって、学校や保護者の方が何度も共同行事を行っていらっしゃることをケーブルテレビを見て知りました。また、久原小学校の運動会を途中からだったんですが、行った際に、思ったより児童数が多いなと思っていると、西小学校のほぼ全校児童が運動会に参加してるということでした。驚くと同時に、スムーズな統合に向けた関係者の努力に敬服しました。このように、熱心に取り組まれてるPTA関係者の負担は大きいと思いますが、市教委はどのような支援をしているのか、教育長の答弁を求めます。

それから、これは教育関係ですが、市長、地域マネージャーのかかわりの必要性について、この件について、市長の見解もお聞かせ願えますか。この学校統合の際に、スムーズな統合をしようという行事とか、そういうものがある。そのときに、地域マネージャーがかかわる必要性、どのように考えてらっしゃるか、お聞かせください。

もう一つ、この件に関してですが、さらに、島外出身の教職員の赴任時に地元の講師を招いて、対馬について勉強する研修会などの機会があれば、教員が地域に溶け込みやすくなる環境もできると思います。そこで勉強したことをまた子供たちに伝えていくと。対馬のことをまず理解していただくというような企画等は考えられないか、教育長に答弁を求めます。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） まず、第1点目からでございます。

統合を実際にスタートする前の1年間を統合の準備期間として考えております。その1年間に子供たちがお互いに行き来をしたり、それからPTAの方も交流をされたり、行事等でですね。そのようなことが各受け入れ校と統合校の校長先生の間で相談をされて進めていただいております。それに移動費が、輸送費がかかりますので、輸送費、そのほかについて、予算をつけて、ス

ムーズに交流ができるように支援をしているところでございます。

それから2つ目の御質問でございます。脇本議員が今おっしゃいましたように、新任管理職員、それから転入管理職員、この研修会については、市教委は以前からやっております、今、おっしゃられたように、いわゆる対馬学ですね、対馬についての歴史とか文化、自然、そういうものについて知っていただく上で、地元の講師の方をお招きをして、今年度から、その時間をとって、研修をしてもらってるところでございます。今後も、このことは充実をさせていきたいというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 学校統合に向けた各種行事への地域マネージャーの参加は考えられないかというお話でした。地域マネージャーも、マネージャー制度も、地域によって、人によって、その濃淡はあるということは、何度となく、ここで申し上げてきました。かかわりがなかなか動き出せないマネージャーさんたちにとっては、そのような機会というのは、絶好の機会になろうかとも思います。ただし、もう既に動いてる方たちにとりましては、これはもう負担が大きくなりすぎるだろうというふうに思います。そのあたりの兼ね合いを考えながら、その情報というものを先ほどの横串ではないですけども、庁舎内での庁内での情報というものをきちんと流しながら、それを好機ととらえ、動き出してもらえれば、幸いだというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） それでは、もう1点、教育長のほうに。

統廃合間における教職員異動の配慮についてはうれしい答弁をいただきまして。その件についてなんですが、統廃合時期は遅くても2年前ぐらいまでには明示することで、中学校でも担当教科の過不足による玉突き人事もある程度解消できたり、異動によって、教職員が遠距離通勤を強いられる。これは先生にとってもそうですし、その疲れた体で授業を受ける子供にとっても、デメリットは大きいと思います。これについても配慮がしやすくなるのではないかと思いますので、これは質問というよりも、この計画に沿った進捗が進むように要望をしておきたいと思います。

もう一つ、教育長に答弁お願いしたいんですが、私は、比田勝出身ですから、複式学級の経験はありません。それで先日複式学級の授業参観をする機会をつくっていただきました。先生も大変ですが、自分の学年の学習に集中できるようになるまで、児童も大変だろうなという思いがしました。また、習熟度のばらつきが激しいクラス、学年、それから落ち着きのない児童がいれば、児童数が少ない複式であっても、学級運営は大変だろうなというのを感じてきました。この複式学級の学習改善への対応いかんでは、市長、教育予算の削減にはあえて聖域を設けるんだということを常々おっしゃっていただいています。ぜひ、このことについては、しっかり取り組んでいただきたいと思います。これも要望です。よろしく申し上げます。

続いて、市長のほう、基本計画についてなんですが、若い職員を活用してほしいということも申しあげました。このPTに若い職員を抜擢すると、次のようなメリットも出てくると思います。最重要事業となれば、一つの部署だけで、さっきからおっしゃられるように完結できる事業ではなく、市長がよく言う横串の関係。これが重要となり、さらには、庁舎内だけでは完結できないこともいっぱい出てくるはずです。民間人との折衝や協力が求められてくると思います。PT担当者には広い視野が養われ、マネジメント能力の向上が期待できます。職員が負担に感じるかどうかは、先ほど、地域マネージャーも負担に感じさせてはいけないということがありました。負担に感じるかどうかは、一つはやりがいを与えられるかどうかで、大きく左右されると思います。若い職員への抜擢を改めて要望しておきます。

先ほど、ステークホルダーの話になりました。ちょっと私の説明が足りなかったかと思えます。会議自体に参画させるということを考えているのではなく、その前に、そういう利害関係者に事情を聞いてくると。例えば、港湾の話にしましょうか。とすると、どういう形に、駐車場はどの位置に、それから出入口はどの位置にということが使い勝手がいいかということについて、利害関係者を含めて話をもっと積極的に聞きに行き、本当に利用する人たちのためになる施設をつくるか、そういうことについて、このステークホルダーという形で述べさせていただきました。この件について、いかがでしょう。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） ステークホルダーの前に、若い職員のPTへの参加という話がありました。実は庁舎内で、若い職員に対して、若い職員だけで、一つの一定の金額を任せてる部分も実はありまして、年に1回若い職員たちで事業決定をしていく部分もあります。それは総額では確かにちっちゃい金額なのかもしれませんが、もう20代の職員さんに、物事の決めるときの考え方というものをきちんとわかってほしいという部分と、市民が何を求めてきているのかという部分もじっくり感じてほしいということで、部署を超えての事業というものを数人の若い職員に任せてしまうということも、既に実は2年前から、もう、やっている部分もあります。いろんな形で、金額は少なくとも、それはすべて任せてしまう部分で、やりがいというものを感じてもらえればいいし、行政というものをしっかりわかってほしいという意味の取り組みも、実はやっているところであります。

また、20代、30代の職員を中心として、鹿児島県のほうに地域づくりの勉強会にも送り込んでいながら、職員をどうかして、これから先育てていきたいという思いでやっております。

そして、次のステークホルダーの話がありました。ただ、単純に利害関係人ということではなく、今のお話を聞いておりましたら、その施設利用者というふうなことで考えておるといってお話ですので、利用者ということになりますと、不特定多数の方から聞くことはパブリックコメント

等でやってはいるんですけども、なかなか、そういう中で集まらない。コメントが。という分もあります。しかし、利用者、代表と想定される方々を集まっていたら、そこについては、利用計画の詰めというのはさせていただいているつもりでもあります。ただし、あとの進捗等々について、そこをやっているかという、外部の人を入れてのことは、今までやってきてない部分も確かにあります。そのあたりについて、改善しなければいけない部分はあろうかと思いますが、また内部でじっくりとそのあたりは考えていきたいと思えます。

○議長（作元 義文君） 2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） その姿勢で取り組んでいただければと思います。今、市民のお話を聞くということが出てきましたけども、聞くというのは受け身のところがまだあると思うので、聞き出せるというか、話してもらえそうな環境をつくっていくということにも、自分自身も、今、議員させていただいてますけども、脇本に言えば、何かしてくれるかもしれないという期待が感じられるような政治家になっていきたいと思えます。ぜひ、その聞くだけじゃなくて、聞きやすい環境をつくるということにも努力していただければと思います。

最後に、先月、対馬で間寛平さんの講演が開かれました。私は所用で出てなかったんですが、聴講者の1人から感銘を受けた言葉を教えていただきました。

アスマラソンを通じて、日本や日本人のよさを再認識できた。しかし、経済的には豊かなこの国で年間3万人もの自殺者がいるのは、日本人が自分の思いや悩みを周囲に伝えることが苦手で、1人で抱え込んでしまう国民性からではないだろうか。アスマラソンをやりたいと思い始めてから、だれにも相談できずにいたが、元マネージャーに打ち明けることから、多くの人に協力してもらい、実現にこぎつけた。1人で抱え込まず、だれかに打ち明けることで世界が変わる。悩んだときには自分の思いや悩みもだれかに伝えてくださいというメッセージだったようです。この話には、私も大変感銘を受けました。どうせ自分の思いや悩みを理解してもらえないだろうと、そんなことを思うんじゃないかと、だれかに相談してみよう。そのためには、普段から、そのような仲間づくりに努めなければいけないという反省もさせられました。そうすることで、前回の選挙で私が訴えてきた負担と達成感の分かち合い。これを広めていけるのではないかと思います。市長が選挙戦で掲げられた、攻めの行政運営に転じるためには、多くの協力者が必要だと思います。市長みずから、対馬市が抱える課題を正直に市民や島外の方にも伝えて、解決策を募ってみてはどうでしょうか。そうすることで、いい方向性が見えてくるかもしれません。物事を1人で百歩進めることは大変です。100人で一歩ずつ協力して、前に進める環境をつくり上げる。市民協働とは、そういうところから動き出すのではないのでしょうか。何か、あれば。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） うなずいてたら、回されました。しかし、うなずきたくなる内容であり

ましたし、冒頭、そちらの席で申し上げましたように、4月以降の発信をしていく部分という担当を設けていきます。間寛平さんの話がありましたけども、やはり、内にとどめることなく、外に発信することによって、3万人の自殺者というの、1人でも2人でも減らしていくという話、相通ずるところがあるわけですけども、私ども、この島、市というものを次の世代にきちんとつないでいくためにも、私どもで、すべてを抱え込むことなく、皆さんにそのあたりを伝えていきながら、皆さんの英知を集めて、次に進んでいければいいなというふうに思っております。先ほど、聞くという話の考え方が、根本が間違ってるんじゃないかという御指摘ありました。聞き出すという話。聞き出すためには、やはり、発信が必要だというふうにも思っておりますので、新年度以降、そちらには市上げて取り組んでいき、冒頭言いましたように、市民基本条例の本旨というものをきちんと考えて市政運営をやっていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） いいですか。はい、2番、脇本啓喜君。

○議員（2番 脇本 啓喜君） どうもありがとうございました。これで質問を終わらせていただきます。

○議長（作元 義文君） これで2番、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。開会を11時5分から行います。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、16番、糸瀬一彦君。

○議員（16番 糸瀬 一彦君） どなたもこんにちは。それでは、質問に入ります前に、先般の市長選挙により、再選を果たされました財部市長、まことにおめでとうございます。

向こう4年間の市政を託されたわけでありまして、責任は大変重大かと思っております。市長自身が選挙期間中に訴えてありました公債費の100億の償還、また基金の60億の蓄え、それに人員削減の問題等、大変な努力であったと私は思っておりますし、市議会はそれを大きく評価したと考えております。

市民の皆様には、非常にわかりにくい大きな実績なんです。過去4年間、毎年80億から70億の償還金、返済金を予算化せざるを得なかった。この苦労は、私は大変だったと思っております。これも1年でも早く健全財政を目指した結果でありまして、市民の皆さん始め各種団体の皆さん、また職員皆さんの協力の賜物であります。本来ならば、言葉は適切ではありませんが、人気商売です。地域住民の希望にこたえたかったであろうと思っておりますが、責任がある者はそのよ